

ランチョンセミナー「水環境分野で働く女性たち」報告

金沢大学 池本良子

年会初日の3月16日(月)12時20分～13時30分に、水環境学会と金沢大学の共催で「水環境分野で働く女性たち」と題したランチョンセミナーを開催した。本セミナーは、昨年度の仙台に引き続き2回目の実施であり、女性学会員同士の情報交換と女子学生のキャリア支援を目的に開催している。今年度は、中部支部および第49回年会実行委員会と、昨年もお世話をいただいた関東支部、そして、金沢大学男女共同参画キャリアデザインラボラトリーの合同企画で実施した。

セミナーには、中部および関東の大学に所属する女性研究者2名、地方研で働く女性研究者2名、企業で働く女性2名、行政の下水道関連部署で働く女性2名の計8名の女性を話題提供者として迎え、41名の学会員および金沢大学学生が参加した。41名の内訳は、男性5名、女性36名であり、学生25名、大学・高専の教員・研究者7名、行政・地方研4名、企業4名、未記載1名であった。

セミナーでは、まず、関東支部の三島より趣旨説明、金沢大学池本より金沢大学の女性研究者支援についての簡単な紹介の後、8名の話題提供者がそれぞれ5分程度でプロフィールの紹介を行った(写真1)。そのあと、8テーブルに分かれ、話題提供者が1名ずつ着席し、ランチ(サンドイッチとシュークリーム、飲み物)を食べながらの意見交換を行った(写真2)。テーブルに着席している参加者が簡単に自己紹介を行った後、話題提供者が職場の男女共同参画への取り組みや、自身の経歴について補足の説明を行った。その後、自由形式で参加者からの質問に回答した。また、今回は参加者を女子学生に限定しなかったため、学生以外の学会委員の参加も多く、初めに紹介した話題提供者以外の「水環境分野で働く女性たち」からたくさんの意見を受けることができた。さらに、男性の参加者も5名おり、男女共同参画は女性だけではなく男性の関心も惹きつけていることが確認できた。最後に、それぞれのテーブルから1～2名に感想を述べてもらった。初めに設定した13時30分という終了時刻を過ぎてもテーブルを移動して議論しているグルー



写真1 話題提供者からのプロフィール紹介

プもあり、短い時間ではあったが、大変盛り上がった会となった。

図1は、実施後のアンケートの結果を示している。アンケートに答えた全員が期待した成果が得られたと答えており、その理由として、他大学の人と交流ができてよかった、それぞれの職業のイメージがつかめ就職を考える上での参考になった、女性の働き方について考えることができた、男女共同参画について知ることができたなどが挙げられていた。また、ほとんどの参加者が本企画の継続を希望していた。その上で、時間が短かった、他のテーブルの人とも交流がしたかったという声が多く聞かれたことから、来年度以降は、ランチョンセミナーという形ではなく、もう少し時間がとれる企画になることが望まれる。

わが国の大学や研究所、企業で働く研究者の中で女性の占める割合はわずかに14%と、諸外国と比較しても非常に低い現状にある。金沢大学においては、女性研究者支援だけでなく、女子学生のキャリア支援を行っており、働く女性割合の増加を目指している。今回は本企画に共催し、学会参加者以外の学内の女子学生にも参加を呼び掛けた。水環境学会には多くの女子学生が参加しているが、研究者として学会に参加している割合は、非常に低いと感じる。本企画により、研究者を目指す女性が増加し、ますます本会が発展することを期待したい。

最後に、大変忙しい中わざわざお越しくださり話題提供をしていただいた8名の方々、そして参加者の皆様に感謝申し上げます。



写真2 グループディスカッションの様子

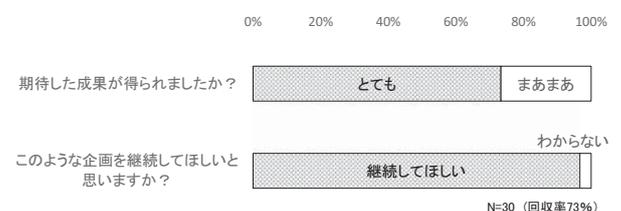


図1 アンケート結果